

執 筆 要 領

1. 原稿の体裁

- 1) 和文：原稿の記述は横書き、縦書きのいずれでも、また手書き、日本語ワードプロセッサ、ワープロソフト（コンピュータ）のいずれでもよい。手書きの場合は専用の原稿用紙（21字×20字）を使用し、黒色のペン字で楷書とする。ワードプロセッサ、ワープロソフトを使用する場合は任意の白紙を使い、専用の原稿用紙に準じた形式とする。
- 2) 英文：原稿は横書きでA 4 版の白紙を使い、ダブルスペースでタイプする。
なお、ワードプロセッサまたはワープロソフトを使用した場合は、和文、英文とも原稿を最終的に提出する際、データフロッピー（表に筆頭著者の氏名・機種・ソフト名を明記のこと）を同時に提出する。
データの形式は、可能であればテキストデータで提出する。

2. 表題等（原稿用紙第1 ページに記載）

以下の例にしたがって論文の表題、著者名、所属学科（機関）名称、受理年月日（ただし月日は編集委員会で記入するのであけておく）を和文および英文で、次にキーワード、ランニングタイトル（ランニングヘッド）を記載する。著者が複数で、所属学科（機関）が異なる場合は、それぞれの所属を番号によって区別し、筆頭著者を1 としてすべての著者に番号を付ける。

表 題：医学用語の構成ついでの研究
氏 名：川崎理子¹、松島久代²、山田花子²、松島太郎³
所 属：¹川崎医療短期大学 一般教養
²川崎医療短期大学 医療秘書科
³川崎医科大学 内科

受 理 年 月 日：

英文タイトル：A Review of Word-Building System for Medical Terminology

英 文 氏 名：Noriko KAWASAKI¹, Hisayo MATSUSHIMA², Hanako YAMADA²,
Taro MATSUSHIMA³

英 文 所 属：¹Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions

²Department of Medical Secretarial Studies, Kawasaki College of Allied Health Professions

³Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School

キ ー ワ ー ド：語幹、医学用語、接頭辞

ランニングタイトル：医学用語の構成

（ランニングタイトルはなるべく簡潔に、24字以内にする。）

3. 概要（原稿用紙第2 ページに記載）

論文が和文の場合は和文で400字以内、英文の場合は英文で250語以内の概要を書く。概要は本文と切り離しても、論文の内容が判るように簡潔明瞭に書くこと。本文中の図、式、文献などは引用しない。

4. 本文（原稿用紙第3 ページ以降）

- 1) 見出しは原則として以下のとおりとする。
 1. 緒言（はじめに）
 2. 方法
 3. 結果
 4. 考察
 5. 謝辞（必要な場合に記す。この付近に、学会や研究会で口頭発表した実績などを記入する）
 6. 文献さらに細かい見出しの番号は(1), (2)…とする。

- 2) 本文は原則として常用漢字、新仮名遣いによる、外国人名や専門的な術語は学会などで一般に用いられているものを使用し、原綴りまたはカタカナ書きとする。
- 3) 略語を用いる場合は、初出のときに完全な用語と()内に略語を書き専門外の読者にも判るようにする。
- 4) 数値の単位は、学会などでよく使用されるものを用いる。
- 5) 文中ボールドやイタリックとすべき文字、さらにギリシャ文字などはそれぞれの文字の下にアンダーラインを記し、その旨を原稿の右の欄外に指定する。

5. 図、表、写真

- 1) 図、表はそのまま印刷できる鮮明なものを1図1表ずつ別紙に書き、汚れないように半透明のカバーを付けて提出する。
- 2) カバーの右上に筆頭著者名と図または表の番号を第1図、第2図…あるいは第1表、第2表…のように書き、刷り上がりの大きさを $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ などのように鉛筆書きで指定する。
図、表は本文とは別に原稿の末尾に順番にまとめる。
- 3) 図、表の本文への挿入箇所は原稿本文の右側欄外に矢印などで指し、図または表の番号を鉛筆で書き込む。
- 4) 写真の場合も図、表に準じて取り扱うが、大きさはかならず手札以上にプリントした鮮明なものを、原稿用紙と同じ大きさで厚めの台紙に貼って提出する。カラー写真の場合は、刷り上がりの色調や費用について事前に編集委員または印刷会社へ問い合わせることが望ましい。

6. 文献

- 1) 文献は本論文に関係のあるものに限り、参考文献または引用文献のいずれの形式でもよい。但し引用文献の場合は、本文中に引用番号を記載し、その番号順にならべる。
- 2) 文献は読者が引用可能なものを記載し、私信、カタログ、内部資料、未発表論文はさける。
- 3) 雑誌を文献とする場合は、著者氏名、論文題目、雑誌名(類似の誌名のあるときは、発行地)、巻、頁(終頁も明記)、西暦年号の順に書く。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、版、発行地、発行所名、頁、年次を記載する(和文の場合は下記2)、3参照)。欧文雑誌名の省略は原則として Index Medicus に従う。引用文献の著者氏名は全員を書く。

雑誌

- 1) Ford, L.E., Huxley, A.F., Simmons, R.M.: Tension transients during the rise of tetanic tension in frog muscle fibres, J. Physiol. 372, 595-609, 1986.
- 2) 松島次郎: 川崎医療短期大学におけるこれからの教育, 川崎医療短期大学紀要7, 51-64, 1991.

単行本

- 1) Brock, S., Krieger, H.P.: The Basis of Clinical Neurology (Williams and Wilkins), 8 th ed, Baltimore. 53-85, 1963.
- 2) 小川耕三: 脳の解剖学, 東京, 南山堂, 94-130, 1965.
- 3) 白居敏仁: 病理学的検査法, 「新しい毒性試験と安全性の評価」(白須泰彦, 松岡 理編), 第2版, 東京, ソフトサイエンス社, 231-280, 1978.
- 4) 引用文献の場合、本文中における文献引用は、次のように記載する。

例: 東村ら³⁾は……

……が指摘されている^{2,3)}。また、北村ら⁴⁻⁶⁾によると……。